

令和元年度 川口市行政評価外部評価委員会 評価対象事業総括表

(単位:千円)

部会	事業名 (担当課)	今後の 事業方針 [事業担当課]	予算編成状況		予算額の推移	
			令和2年度 予算要求 [事業担当課]	予算編成結果 [財政課]	令和元年度	令和2年度
第一部会	① 介護予防普及啓発事業 (長寿支援課) 【P1～2】	現状維持で 実施	前年度と同水準 (要求額:9,222)	要求額どおり	9,103	9,222
	② 子どもの生活・学習支援事業 (子ども育成課) 【P3～4】	現状維持で 実施	前年度と同水準 (要求額:83,190)	要求額どおり	82,160	83,190
	③ 特別支援教育支援事業 (指導課) 【P5～6】	事業縮小 および廃止	増額 (要求額:22,912) 【増額理由】 送迎1回あたりの単 価が上がったため。	要求額どおり	14,304	22,912
第二部会	④ 母子・父子福祉センター 補助事業 (子育て相談課) 【P7～8】	事業廃止	前年度と同水準 (要求額:4,892)	要求額どおり	4,401	4,892
	⑤ 在宅歯科診療事業 (保健総務課) 【P9～10】	現状維持で 実施	前年度と同水準 (要求額:11,131)	要求額どおり	12,289	11,131
	⑥ 市民大学事業 (生涯学習課) 【P11～12】	現状維持で 実施	前年度と同水準 (要求額:4,478)	要求額どおり	4,282	4,478

事業名	介護予防普及啓発事業 (介護予防リフレッシュウオーキング事業) (生きがい温水プール浴事業) (介護予防ギフトボックス事業)	担当課	長寿支援課	部会	第一部会
-----	---	-----	-------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
介護予防のための個々人の取組を、日々の生活として定着させるとともに、介護予防に関する知識の普及及び啓発や、地域における自主的な介護予防に資する活動の育成及び支援を実施するもの。	今後の方向性
事業内容	
<p>・筋力の向上と老化の防止を図るため、運動教室等を実施する。</p> <p>・高齢者の生きがいづくりや健康づくり、社会参加を促進させるため、市内の企業・団体が行っている介護予防に資すると認められる教室や活動に体験参加してもらうことで、継続した介護予防のきっかけづくりを行う。</p> <p>【対象者】65歳以上(一部55歳以上)の要支援・要介護認定を受けていない市民</p> <p>◆介護予防リフレッシュウオーキング事業(委託) ◆生きがい温水プール浴事業(委託) ◆介護予防ギフトボックス事業(補助金)</p>	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>(1) 介護予防の必要性は必然であり、実施可能な方法を選択しているが、達成手段については、参加人数の問題や地域の問題等、若干問題がある。</p> <p>(2) 地域差、参加者数と併せて、計画が3年毎に策定されるとのことであるため、その際、適正に評価し、評価に沿ってギフトボックス以外の「介護予防リフレッシュウオーキング事業」及び「生きがい温水プール浴事業」との統合等を踏まえた方向性も検討してみてもどうか。</p>
--

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>(1) 「介護予防ギフトボックス事業」については、今年度、利用者の参加教室数の制限の撤廃を行い地域格差の是正を図るとともに、事業者の登録教室数の上限の一部緩和を行った。今後、対象者の範囲の拡大、実施期間の延長等について検討していく。</p> <p>(2) 「介護予防リフレッシュウオーキング事業」及び「生きがい温水プール浴事業」は、現在「介護予防ギフトボックス事業」の登録教室が少ない地区において実施しているが、今後、「介護予防ギフトボックス事業」の拡充を図りながら、これらの事業の整理・見直しについて検討していく。</p>

4 担当課の令和2年度予算作成にあたっての考え方

「介護予防リフレッシュウォーキング事業」、「生きがい温水プール浴事業」及び「介護予防ギフトボックス事業」ともに、令和元年度と同水準で予算要求予定。
 「介護予防ギフトボックス事業」については、引き続き地域格差の是正に取り組むとともに、対象者の範囲を拡大し、参加者数の増加を図る。また、実施期間の延長等の検討を含めて拡充を図りながら、「介護予防リフレッシュウォーキング事業」及び「生きがい温水プール浴事業」の整理・見直しについても検討していく。

5 予算編成結果

予算要求額	9,222千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	介護予防ギフトボックス事業の教室数増加に伴い、周知パンフレットを刷新するため、前年比で増額となる予算要求であったが、要求額どおりとしたもの。

※(参考)予算額の推移

単位:千円

年度	予算額	前年度比
平成30年度	9,120	
令和元年度	9,103	-17
令和2年度	9,222	119

事業名	子どもの生活・学習支援事業	担当課	子ども育成課	部会	第一部会
-----	---------------	-----	--------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
生活の困窮や様々な問題を抱えた子どもに対し、健全な日常生活の維持、自己肯定感やコミュニケーション能力の向上を通して、将来の社会参加に目標を持った人格の形成に資することを目的とする。	事業の効果
事業内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援(学習支援教室の開催、居場所の提供、訪問学習) ・相談事業(一般相談、進路相談、高校中退防止対策、保護者等に対する養育支援) ・食事の提供(調理実習等の食育指導) ・就労体験・ボランティア体験の実施 ・その他(貧困の連鎖の防止に資すると認められる支援) <p>【対象者】生活保護世帯、就学援助世帯、ひとり親世帯に属する小学4年生から高校3年生までの児童及び保護者</p> <p>【参加費】無料(食事を希望する場合、1食20円を負担)</p> <p>【委託先】一般社団法人 彩の国子ども・若者支援ネットワーク</p>	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>実施能力のある専門的な団体に委託し、実施することは妥当だと思うが、費用については、可能な限り抑制したほうがよい。</p>

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>学習支援事業の周知方法について常に見直しを行い、より一層の利用者の増加を図り、効率性を追求していく。また、他市の動向を注視しつつ、比較検討を行い、事業内容の検討を行うとともに、費用の抑制についても十分に考慮しながら事業を展開をしていく。</p>

4 担当課の令和2年度予算作成にあたっての考え方

学習支援、家庭訪問、食育支援、就労体験・ボランティア体験といった事業内容の実施は来年度も継続を基本とする。また、本市の子どもの貧困対策の根幹を成す事業であるため、より一層の貧困の連鎖の防止に積極的に取り組むべく、教室会場や対象学年については常に見直しを行う。ただし、消費増税等の影響により委託料の増加はやむを得ないが、予算の膨張に配慮するため見積り内容を見直し、補助対象経費を拡大し特定財源の確保に努め、一般財源は昨年度以下に抑えることとする。

5 予算編成結果

予算要求額	83,190千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	前年同程度の要求であり、増額理由も人件費、消費税増によるものであることから要求額どおりとしたもの。

※(参考) 予算額の推移

単位:千円

年度	予算額	前年度比
平成30年度	80,259	
令和元年度	82,160	1,901
令和2年度	83,190	1,030

事業名	特別支援教育支援事業 (小学校障害児送迎事業)	担当課	指導課	部会	第一部会
-----	----------------------------	-----	-----	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
市立小学校に設置する特別支援学級に在籍する遠距離通学児童について、タクシーにより自宅と在籍校との間を送迎し、登下校の安全を確保するとともに、保護者の負担軽減と安心感を担保することにより、教育活動の円滑な実施を図る。	今後の方向性
事業内容	
<p>・自宅から2km以上のため徒歩による通学が困難な距離にある小学校の特別支援学級に通学する児童を送迎するため、市内特別支援学級設置校を循環するタクシーの運行を実施する。</p> <p>【委託先】株式会社川口自動車交通、株式会社蔵商</p>	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>(1) 他市に比べ、特別支援学級に関して手厚い支援を行っていることは、非常に評価できるが、送迎コストがかかりすぎている。</p> <p>(2) 受益者負担については、無理にならない程度の費用負担を制度化すべきである。</p>

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>(1) 送迎コストについては、単価が高額のため、事業の縮小及び廃止の方向で検討していく。</p> <p>(2) 受益者負担については、現段階においては、手続きや事務負担増の観点からも難しいと捉えている。合理的配慮事項等を含める中で、対象児童や利用年数を限定することを検討していく。以上のことを踏まえ、障害児送迎事業の縮小及び廃止の方向で進めていく。</p>

4 担当課の令和2年度予算作成にあたっての考え方

- ・事業の縮小と予算の抑制のために、登下校を含めた通学支援から登校のみの通学支援となるよう検討する。
- ・消費税増額に伴うタクシー協会の大幅な料金改定により、予算コストをできるだけ抑える。

令和2年度のパンダカーの運行に関して、以下の点に留意して計画を進めていく。

- ①令和2年度は、登校のみの支援とする。(令和元年度は、登下校の通学支援)
- ②通学距離や児童数の推移を注視しながら、特別支援学級の設置を検討していく。

5 予算編成結果

予算要求額	22,912千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	R2年度は、パンダタクシー事業を引き続き継続するものの、R2～3年度を事業廃止猶予期間と定め、R4年度から事業廃止を予定。猶予期間中に特別支援学級の設置を進める。猶予期間中には、歳出抑制となるタクシーチケットの利用を保護者に勧める歳出削減策を実施することを鑑みて要求通りの額として査定したものの。

※(参考)予算額の推移

単位:千円

年度	予算額	前年度比
平成30年度	13,112	
令和元年度	14,304	1,192
令和2年度	22,912	8,608

事業名	母子・父子福祉センター補助事業	担当課	子育て相談課	部会	第二部会
-----	-----------------	-----	--------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
母子・父子福祉センターにおいて、本市の社会福祉事業の効率的運営と組織的活動を促進し、母子家庭等が抱える様々な問題解決を図るなど母子家庭等自立支援のため、各種福祉事業を推進している社会福祉事業団に対して補助金を交付し、地域社会福祉の増進を図ることを目的としている。	事業の効果
事業内容	
<p>・母子家庭等の自立促進のための講習会、自立支援を行うための生活・教育相談及び研修会、利用者の交流を深めるためのレクリエーション事業などの実施。</p> <p>【運営】川口市社会福祉事業団(補助金交付)</p>	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>(1) 設立当初は、社会情勢的にも、非常に効果的な事業であったと思われるが、現在は、母子・父子家庭への偏見は少なくなっているため、必要性に疑問がある。</p> <p>(2) 母子・父子福祉センター補助事業の可否と文化財に登録されている建物の維持の問題が絡み合っているため、問題の解決を困難にさせている。それぞれを引き離して考えるべきではないか。</p>

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>(1) 事業廃止に向けた対応を実施していく。</p> <p>(2) 母子・父子福祉センター事業については、事業廃止に向け、事業実施主体や建物寄贈者への説明を進めていく。建物については、利活用等については、当課の範囲外と認識しているため、維持管理の方法も含め、関係部局と調整し方針を検討していきたい。</p>
--

4 担当課の令和2年度予算作成にあたっての考え方

- ・耐震強度診断については、診断前の事前調査が必要となることが確認できたことから、令和2年度においては、その調査費用を含んだ予算作成を実施し、早急な対応が図れるよう努めていく。
- ・事業については廃止に向け、事業実施主体、利用者、建物寄贈者等への説明を令和2年度中に実施していく。このため、令和2年度については、事業を継続する必要があることから、事業継続に必要な予算作成を実施する。なお、事業実施主体については、自主事業の周知方法等を工夫し、参加者数増に向けた取り組みを実施するよう指導する。

5 予算編成結果

予算要求額	4,892千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	前年度より増額となっているが、外部評価の結果を受け、耐震診断等の実施に向けた調査業務費を計上するものであることから要求額どおりとしたもの。

※(参考) 予算額の推移

単位:千円

年度	予算額	前年度比
平成30年度	4,086	
令和元年度	4,401	315
令和2年度	4,892	491

事業名	在宅歯科診療事業	担当課	保健総務課	部会	第二部会
-----	----------	-----	-------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
日曜・祝日の救急歯科患者に対応するため。	事業の効果
事業内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・休日等における歯科初期救急医療体制の確保 ・休日等における歯科初期救急医療体制の周知活動 <p>【委託先】川口歯科医師会</p>	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>(1)日曜、祝日に開院する歯科医院が増加傾向の中、歯科医師会任せとなっている現在の輪番制について、担当課で地域差も考慮した上で、検証すべきと考える。</p> <p>(2)「日曜日廃止」「日曜日1医療機関体制」などのシミュレーションができているため、実現に向けてプロセスを進めるべきである。</p>

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>(1)日曜・祝日に開業している歯科医院を把握し、地域差の解消を含め、歯科医師会と協議をしていく。</p> <p>(2)地域差などを勘案し、事業を有効化する方法を模索した上で、必要に応じて日曜日の縮小・廃止を検討していく。</p>

4 担当課の令和2年度予算作成にあたっての考え方

日曜・祝日に開業している歯科医院の地域差を把握し、効率のよい当番医の決定方法について検証すること、また、本事業の課題や方向性について歯科医師会との協議を重ねる必要があることから、令和2年度においては現状維持で予算を計上する予定である。

5 予算編成結果

予算要求額	11,131千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	一定の需要があり必要性は認められるものの休日開業している歯科医院が増えていることから、事業のスリム化を図る必要があると評価をいただいていたが、歯科医師会との調整等を要することから令和2年度当初予算においては、例年通りの要求となっている。令和3年度当初予算では、調整等を進めスリム化の方向で検討していることから要求どおりとした。

※(参考) 予算額の推移

単位:千円

年度	予算額	前年度比
平成30年度	11,074	
令和元年度	12,289	1,215
令和2年度	11,131	-1,158

事業名	市民大学事業	担当課	生涯学習課	部会	第二部会
-----	--------	-----	-------	----	------

1 事業概要

事業目的	視点
生涯学習社会が進展する中で、市民の高度で多様な学習要求に応える。市民が「生きがいづくり」「自己実現」を達成し、より豊かで充実した人生を送ることに貢献する。	今後の方向性
事業内容	
<p>市内外の高等教育機関や公民館などの社会教育施設と協力し、文学・歴史・自然科学等の一般教養や専門的知識を学ぶ講義のほか、現代的課題等を取りあげる講座を開催する。</p> <p>【対象者】市内在住・在勤・在学の18歳以上の方</p>	

2 外部評価委員からの主な評価コメント

<p>(1) 現在の講座内容で、50～60代の参加者に喜ばれているのであれば、事業としては成功だと思ふ。しかし、18歳以上の方を対象と謳うのであれば、若者に対するアプローチの戦略が明確とは言えない。「盛人大学事業」と「市民大学事業」について、両者は異なるものであると担当課は明確に認識しているが、市民は理解できないため、同様なものが2つあると思ってしまう点が効率的ではない。</p> <p>(2) 「盛人大学事業」と「市民大学事業」について、両者は異なるものであると担当課は明確に認識しているが、市民は理解できないため、同様なものが2つあると思ってしまう点が効率的ではない。</p>

3 外部評価委員会からの評価コメントに対する事業担当課の主な対応方針

<p>(1) 若者に対するアプローチとして、若年層の職員の意見を取り入れて、魅力的な講座の企画に努めたい。</p> <p>(2) 「盛人大学事業」との違いを明確にするか、または、統一を目指すのかは、今後とも検討を重ねていきたい。</p>
--

4 担当課の令和2年度予算作成にあたっての考え方

若年層を意識した講座内容を企画することを重視して予算作成にあたりたい。「盛人大学事業」との棲み分けをするのか、統一を図っていくのかについては、今後も検討を重ねていきたい。

5 予算編成結果

予算要求額	4,478千円
財政課の 予算編成結果	要求額どおり
その理由	講座内容の変更等により、予算は前年度と比べ増額しているが、外部評価の結果を受け、若年層を意識した講座の企画を検討しており、適正と考え要求を認めるもの。

※(参考)予算額の推移

単位:千円

年度	予算額	前年度比
平成30年度	4,245	
令和元年度	4,282	37
令和2年度	4,478	196